

### 寒くありませんが皆様にはお 変わりありませんか？

今年の紅葉はあまりきれいでなかった気がします、皆様どのように感じられましたか？天候が順調でなかったせいでしょうか？台風も多かったです。

それはさて置き毎年の繰り返しですが、冬の間には寒肥を与えたり、松くい虫の予防(後ほど予約の案内をいたします。)対処しなければならないことが有ります。落葉樹や針葉樹の移植も今頃から新芽が動き出す前までに、済ませた方が良いです。

落葉樹は新芽が動く頃には想像以上の水を吸い上げています。その頃に根を切ることは大きなストレスになります。場所を変えたいとか、新たに植えたいと思っておられる方は是非この間にご検討下さい。ただし常緑樹の中には温かい季節の移植や剪定を好むものが多いので心配な方はプロに相談して頂くと良いと思います。

### ここからは先回開催しましたお 庭拝見

の報告をさせていただきます。

まず大勢の方に申しこんで頂きましたが、人数制限があり一部の方には、大変申し訳ないことを致しました。個人のお宅にも入らせていただくことで、大勢で入ることができなかつたのでご迷惑をおかけしました。

まず最初にこのニュースレター第1号に紹介させて頂いた袴田さんのお宅のお庭に入らせていただきました。袴田さんのお庭は樹木に関しましては当社が袴田さんの希望をお聞きし植栽しましたが、



千代田園芸社  
の石倉です

その後時間をかけて奥様が大好きな植物をコツコツ増やされた手づくり感いっぱいのお庭です。珍しい植物もいっぱい入っているので植物好きな皆様にはたまらないお庭だったようです。例えば、アサリナとか、オキシペラタムブルースターなどです。お分かりになりますか？

たくさんお話をうかがいたかったのですが、たまたまお孫様の運動会と日程が重なりお留守だったのはとても残念でした。

袴田さんご自身も皆様と語り合いたかったと非常に残念がって見えました。参加して下さった皆様も是非春の庭を拝見したいとの要望が強く、来春に奥様が在宅の日程を調整したうえで再度企画したいと思っています。

次に陶釉さんのお庭を拝見に行きました。ここは石を使った日本庭園ですが、当社が行ったりホームのビフォー、アフターを実感して頂きたく案内しました。ところが、おいしいお菓子とお茶、そして陶釉さんで企画されていた作品を堪能して大幅に時間延長となり、締まりのない解散になってしまいました。ですが、皆様とても満足して頂いたようで、ぜひ次回も企画して欲しいとのことで、良かったと思いました。



陶釉さんのお庭拝見盛り上がりしました

## 冬の剪定は、人間の身勝手から来た？

年末に剪定を依頼されるお宅は多いと思います。当社も11月12月は街路樹の剪定も含め個人邸もこの時期に剪定依頼が集中し大変込み合う時期です。年間契約をさせて頂いているお宅は、連絡がなくても優先的に剪定をさせて頂いております。11月に入ってからのご依頼になるとお客様には申し訳ないですが、お断りすることも多くあります。

でも本当に11月12月が良いのでしょうか？常緑樹の場合春遅くか初夏の方が良いものがあります。例えば山桃、檜、モッコクなどです。冬に剪定すると、この種の樹木は切り口が凍ると枯れて下がってきてしまいます。これはこの種の樹木が元々暖かい地方で生まれた樹木だからです。

落葉樹、針葉樹は冬が良いと言われます。例えばコニファを夏に剪定すると切り口が赤く変色し見栄えが悪くなります。これはコニファが寒い地域の生まれだからです。変わったところで松は、初夏に剪定する方法と冬に剪定する方法とあります。かつては年2回剪定に入ることも多くありました。(当社でも年2回ご希望のお宅も有ります)。夏に切るの葉の短い盆栽のような剪定の仕方をしたい場合に行います。冬は葉揉みという剪定の仕方なので、古い葉を全部落とし如何にも新年を迎えるのにふさわしい剪定の仕方になります。

理想的には年2回剪定がよいのですが、現実には年1度で済ませることが多くなっています。

こんな理由で、掃除も兼ねて年末に気分もさっぱりという剪定も良いですが、お宅に入っている樹種によっていつが一番良いのか、ぜひ毎年剪定に入っている庭師さんに相談してみてください。場合によってはベストの時期にゆっくりやって頂けることになるかもしれません。

また今年こそは剪定に入ってもらおうとお考えの時は遅くとも10月には予約をとった方が良いでしょう。その頃なら場合によっては年内が可能になるかも知れません。庭師もしっかり時間を頂ければそれだけよい仕事ができるものです。

先ほどまでは剪定の時期でしたが、次は剪定の方法です。剪定の方法は、庭師それぞれの技術になりますので、数えきれないほどあると思います。一例を挙げますと、下写真です。これは自然樹形の落葉樹の剪定例です。



かたや形を盆栽のように整えていく剪定方法等ありますがこれは、できるだけ自然に見えるように剪定したものです。洋風の庭の場合はこのような自然樹形を望まれることが多いです。簡単そうで難しいのがこの剪定方法です。適当に枝を抜くと自然に見えなくなります。また木を小さくしてほしいと言われて、ブチブチと枝先を切れれば自然樹形にはなりません。どの枝を残しどこで切り落とすかは、人に寄りますが下積みから数えて7年から10年経験を積まないとなかなかできないものです。抜きすぎてもダメ、残しすぎてもダメ。難しいですね。

## 年末年始のお休み

今年は12月28日～1月5日までとさせて頂きます。2014年もイベントを考えていきますので、お気軽にご参加ください。